

平成 25 年 度

学 校 評 価 (結 果)

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し、民主的かつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ、自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1
「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価		
(全体レベル) 指導方法の工夫・改善を行い、個性の伸長を図るとともに基礎的・基本的な知識・技術を習得させ学力の向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上 ②指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ③授業時間の確保	評価指標 ①-1 生徒の総合的評価「授業満足度」80%以上を目標とする。 ①-2 1日の家庭学習時間の平均30分以上が65%以上および課題の提出率100%をめざす。 ②生徒による授業評価における「授業の進め方」についての満足度が80%以上をめざす。 ③年間授業実施率80%以上を目指す。	評価指標による達成度 ①-1 生徒の総合的評価「授業満足度」63%。 ①-2 1日の家庭学習時間の平均30分以上が27% 課題の提出率66% ②生徒による授業評価における「授業の進め方」についての満足度が63% ③年間授業実施率69%	評価 B C B B	総合評価 B (所見) 各アンケートの結果、生徒・保護者・教職員の意識が、明確となり教職員の授業改善意欲向上につながった。 ①-1 生徒の能力や実態に応じたきめ細かい指導を充実させ確かな学力の向上に努めていきたい。 ①-2 来年度の取り組み課題となった。 ②シラバス等を活用し学習への取り組みを容易にする。 ③年間授業実施率のさらなる向上に努めたい。		B ○実験、実習や視聴覚教材の効果的な導入 ○生徒の能力や実態にあったきめ細かな指導の徹底 ○個々の能力・適正に応じた学習プランを提示 ○学校行事の厳選と職員会議等の運営
	活動計画 ①-1 週末等に適切な課題を与え、学習の習慣や学習方法を身につけさせる。 ①-2 未提出者には、居残り補習をさせて提出させる。 ②職員の指導力及び授業の質の向上につながるため教科会を学期に1回以上もつ。 ③-1 学校行事の内容と日程の調整を徹底するとともに、振り替え補充授業を確実に行う。 ③-2 不測の事態に備えるために自習課題プリント等を事前に用意しておく。	活動計画の実施状況 ①-1 長期休業中課題を出すことはできたが毎週末課題を与えることができなかった。 ①-2 担任を中心に居残り補習を実施し継続的に取り組んだ。 ②授業力の向上のため教科会を5教科で実施した。 ③-1 学校行事厳選についての検討をした。また、振替による自習をなくし同教科の補充授業を実施した。 ③-2 各教科で自習課題、プリントを事前に用意した。	成果と課題 ①-1 学習の習慣化を図る方法についての工夫と継続的な指導が必要である。 ①-2 基礎学力の向上や学び直しを意識して指導を実施することで生徒の興味・関心、学習意欲向上に役立った。 ②教師の授業力向上を目指し全教科での教科会の実施や公開授業を実践する必要がある。評価方法の改善を検討することで「指導と評価の一体化」を進める。 ③-1 振替による自習をなくすことで各教科の授業時数確保につながった。 ③-2 すべての教科では、課題を用意できなかった。	学校関係者の意見 学校関係者の意見 社会に出てからも学び続けることが「生きがい」や「やりがい」につながる。そのためには自学・自習の能力が必要である。今後も継続して指導してほしい。 教科を越えて実施し、授業改善意欲をより向上させてほしい。 授業時数を確保することにより学力の向上を図ってほしい。	○適切な週末課題の実施 ○学ぶ意味の理解 ○公開授業、研究授業の継続実施 ○達成プランや活動計画の明確化と教職員に対しての周知	

総括評価表

重点課題 2
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にすることを身に付ける。 (下位組織レベル)	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 80%をめざす。 ①-2 人権ホームルーム活動を年間5回以上実施する。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を年間1回以上実施する。 ②研究大会、研修会参加率 90%	評価指標による達成度 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 46% ①-2 人権学習ホームルーム活動の実施 100% ①-3 道徳教育のホームルーム活動を年間1回実施した。 ②研究大会、研修会参加率 96%	評定 C A B A 総合評価 B (所見) 年間の人権学習ホームルーム活動を5回計画し、学校行事の関係で変更したが、5回実施することができた。人権学習ホームルーム活動満足度が低いため今後の指導内容や指導方法に改善する工夫が必要である。本年度道徳教育の統一のホームルーム活動を行うことができた。	B	○実施内容の工夫 ○体験的な学習方法の工夫 ○計画的な実施
①人権が尊重される学習活動づくり ②教職員研修の充実	活動計画 ①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ①-2 人権学習ホームルーム活動実施の際は学年で共通の指導案を作成し、十分協議をして進める。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には共通の指導案を作成して行う。 ②-1 校外の研修会には、一定の教職員に偏らないように多くの教職員が参加できるようにする。 ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ②-4 みなと高等学園などの関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間1回以上実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 人権教育課からは毎回提示することができなかったが各担当が生徒に応じた資料を提示できた。 ①-2 各学年で協力して協議をして進めることができていた。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動では担当が共通の指導案を作成して行うことができた。 ②-1 研修時期が決定すると早いうちから研修計画を立てたため多くの教職員が校外の研修に参加することができた。 ②-2 夏期休業中の研修を実施し、3月に研修予定である。 ②-3 年間1回の研修会を実施することができた。 ②-4 みなと高等学園の先生方と連携・相談を図り特別支援教育についての改善を進めることができた。	成果と課題 ①-1 人権教育課と各学年との資料のやりとりも行っていたがもう少し綿密に行えばより効果的であると考えます。 ①-2 学年やクラスの実態に応じて各学年で話し合い資料を作成して人権学習ホームルーム活動を実施できていた。 ①-3 本年度は全学年共通のテーマで行った。来年度は各学年でそれぞれにテーマを設定してより効果がでるように実施したい。 ②-1 今年度は全国同和・人権研究大会が徳島県で実施され多くの教職員が研修会に参加した。他の校外の研修会へも多くの教員が参加できた。今後も早めの計画を立てたい。 ②-2 今後も教職員研修は教員にアンケートを実施し希望に添えるようにするなど充実を図りたい。 ②-3 研修会の持ち方は、従来の講演形式を変更し、個別の指導計画の具体的な立て方の方法を研修する方向で内容を検討したい。 ②-4 関係機関との連携・相談を3回実施した。来年も継続実施する予定である。	学校関係者の意見 人権教育の本質を見失わないようにしてほしい。また、生徒ひとりひとりが安心して楽しく学べる学校づくりに努めてほしい。 教師自身が自らの資質・能力を高め、自信を持って人権問題に取り組んでほしい。	○人権教育課と学年との協議 ○実施内容や実施時期などの検討 ○計画的に実施する。 ○効果的な研修内容を考える。 ○関係機関との連携・相談を綿密に行う。

総括評価表

重点課題 3

「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。 (下位組織レベル)	評価指標 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 95%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80% ②総求人数 200 訪問企業数 80 ③取得資格数 1年生対象に実施する刈払機取扱作業 者教育の資格取得率 80%以上をめざす。 2年生, 3年生対象に実施する農業技 術検定3級の合格率 70%以上をめざす。	評価指標による達成度 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 88% ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 96% ②総求人数 361 訪問企業数 65 ③刈払機取扱作業安全衛生教育 資格取得率 88% (44名取得) 農業技術検定3級合格率 2年生 19% (8名合格) 3年生 30% (13名合格)	評定 B A B A C	総合評価 B (所見) 「勝浦塾」就業体験学習を通して望ましい勤労観・職業観が育っている。進路に対する意識も高まり、早くから将来について考えることができるようになった。進路決定について、教職員間が共通理解を図り計画的に取り組んだ。	B ○早くからの進路に向けての意識付け ○勝浦塾の意義を伝え、参加を呼びかける。 ○資格取得の意義を生徒に説明し取得率の向上をめざす。 ○農業技術検定の補習を計画的に実施
	①組織的なキャリア教育の推進 ②企業訪問と求人開拓 ③資格取得の奨励	活動計画 ①-1 夏休み中に「勝浦塾」就業体験学習をおこない、受入事業所から評価と助言をもらう。9月に「勝浦塾」報告会を実施する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。 ②-1 進路指導課・3年学年団を中心に5, 6月に企業を訪問し、進路を開拓する。 ②-2 卒業生から、職業について体験談を聞き仕事内容を知る相談会を1学期に実施する。 ③-1 関係機関と連携し、各種検定や資格を積極的に取得することができるように情報提供を行う。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させる取組を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 8月後半に2学年10名が4つの企業において、就業体験学習をおこなった。9月19日には、1,2年生を対象に班ごとに報告会を実施した。 ①-2 各学期に1回、職業ガイダンスをおこなった。職業講話・面接練習・職業体験などを実施した。 ②-1 5,6月、管理職・進路指導課・3年学年団等が分担して、前年度の求人企業を中心に訪問し求人依頼等を行った。 ②-2 夏休み前に卒業生が来校し、就職希望の生徒に対して相談会を実施した。仕事内容等について貴重な話を聞くことができた。 ③-1 コベルコ教習所松山教習センターにお世話になり、特別教育の資格講習会(フォークリフト、アーク溶接等)を実施した。 ③-2 農業の科目「課題研究」の授業で、農業技術検定のテキストを使用して学習を行った。	成果と課題 ①-1 HR・授業等を通じて、働くことの意義や就業体験の重要性を伝えたことで意欲のある生徒が就業体験学習に参加した。1年生に向けても報告会を実施したことで、来年度も引き続き多くの生徒が参加できるようにはたらきかけていきたい。 ①-2 職業ガイダンスの実施により、生徒全員が仕事について体験することができた意義は大きい。 ②-1 企業訪問により、企業が欲しい人材についての情報を入手することができた。訪問がすぐには求人には繋がらないことも多いが今後も実施していきたい。 ②-2 先輩の生の声を聞くことにより、仕事の厳しさや楽しさを知り、社会人としての心構えについて考えることができた。 ③-1 フォークリフト修了者16名、アーク溶接修了者10名、小型車両軽建設機械修了者12名 ③-2 授業で検定対策の学習を行ったが、授業だけでは合格につなげることができなかった。	学校関係者の意見 企業現場における業務内容を知る良い機会である。実習だけで終わることなく得た成果を校内で報告する時間をつくっている取り組みは、すばらしい。 各事業所との信頼関係を維持する上で重要な取り組みである。組織的・計画的に継続し、求人獲得につなげてほしい。 身近な先輩の体験談は就職活動の意欲を増す効果がある。今後も継続してほしい。 資格取得の有効性を周知してほしい。 農業に関連する求人が少ないことが残念である。

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。 (下位組織レベル) ①頭髪・服装指導の徹底 ②基本的生活習慣の育成 ③交通事故の防止と通学マナーの向上	評価指標 ①年間5回以上頭髪・服装指導を行う。 ②遅刻指導については、段階に応じて保護者面談等を実施する。	評価指標による達成度 ①定期考査前、体育祭、文化祭等の各種行事前には指導を実施し、年間5回以上実施できた。 ②各HRで遅刻指導だけの面談だけでなく、長期休業中の三者面談や、成績面での面談等で実施していただいた。	評定 A B A	総合評価 B (所見) 服装・頭髪指導については、全校生徒、教職員共通理解の下、粘り強く実施することで、ある程度の成果は得られている。遅刻指導については、HR単位での細やかな取組を実施しているが、なかなか数値的な減少が見られず、次年度に向けて新しい取組を検討することも必要であると考え。 交通安全指導については、継続的に取り組んでいるが、残念ながら本年度も自転車・原動機付自転車による事故が発生している。生徒指導面については、粘り強い継続指導こそが唯一の解決方法であると考え、今後も保護者・地域の方の協力をいただきながら取組を続けていきたい。	B ○次年度も継続して実施していく。 ○新たに遅刻改善指導の実施を検討している。平成26年度より導入したい。 ○継続実施する。運転技能講習会については運転免許センター移転に伴い実施方法について再考する。
	活動計画 ①各学期の節目に全校集会を行い、HR、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導を行う。 ②-1 朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成を行う。 ②-2 全ての学年で、年度当初に家庭訪問を実施するとともに、必要に応じて個人面談を行う。 ③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施する。 ③-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上を図る。 ③-3 全てのバイク通学生徒は2輪車安全運転県大会に出場し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高める。	活動計画の実施状況 ①各学期末、主要行事前、また問題行動が多発した時期には不定期で、全校集会、また学年集会等を実施できた。 ②-1 生徒会を中心に朝のあいさつ運動、また地元行政機関や福祉施設、病院等の公共施設等の美化活動、奉仕活動を実施することができた。 ②-2 4月から5月にかけて全学年で家庭訪問を実施することができた。また、長期休業中や学期末等で個別に3者面談を実施した。 ③-1 毎朝の校門前でのバス通学生徒への指導、学期毎に教員による乗車指導、バス会社との緊密な連絡指導が実施できた。 ③-2 交通委員会によるバス停、駐輪場の清掃をはじめ、小松島警察署や交通安全協会の方による車体検査への協力等をいただき、積極的に実施できた。 ③-3 長期休業中に、県運転免許センターにおいて、全てのバイク通学生徒が運転技能講習会に参加した。	成果と課題 ①HR・学年だけの指導だけではなく、生徒指導課による公平な対応を心がけた結果、生徒・保護者に一定の理解が得られたと思う。 ②-1 朝のあいさつ運動については、本校の取組として地域にも定着してきており、今後も継続して実施していきたい。農業高校としての特色をいかした地域貢献活動を実施できた。 ②-2 通学範囲が広範囲に及ぶが、各HRで家庭訪問が計画的に実施できた。その結果、特別指導時の効果的な材料として活用することができた。 ③-1 全校集会や、学年・HR単位での指導を継続しているが、バス通学生のマナーの向上には課題がある。今後も地域・バス会社等の協力をいただきながら、指導を継続していく。 ③-2 遠隔地であり、自転車・原動機付自転車通学生徒の危険箇所も多く、重大事故発生には今後とも最優先事項で取り組みたい。 ③-3 本年度は、全国大会出場者を出すことは出来なかったが、意欲的に参加できた。会場である免許センター移転に伴い、来年度の参加について検討していきたい。	学校関係者の意見 地元の小・中学校が模範にしている。とてもいいことであり気持ちが良い。今後も継続してほしい。 担任の先生には手間をかけるが保護者にとってはとてもありがたいことであると思う。学校外の機関との連携も必要に応じて図ってほしい。 公共のモラルを教える良い機会である。町も、引き続きダイヤ改正や増便、阿南方面の運行などを要望していきたい。また自転車の交通ルールも改正になったので原付はもちろん自転車通学生の指導も強化する必要がある。	○教職員の意識改革と公平性の確保 ○農業高校としての特色をいかした更なる取組の深化 ○次年度から、実施時期を変更し、PTA活動と連携した取組を実施する。 ○生徒の利便性を考慮したバス会社との連携や地域の方との理解を図る。 ○所轄警察や関係機関、PTAと連携を密にして事故防止に努める。 ○会場移転に伴い、実施方法を再検討する。

総括評価

重点課題 5
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。 (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	評価指標 ①-1 生徒の特別活動満足度 80 %をめざす。 ①-2 朝のあいさつ運動毎日実施(テスト時を除く) ①-3 農業祭における来場者数 200 名をめざす。 ①-4 クラス別・学年別集会の実施回数 5 ②部活動加入率 60 %をめざす。 ③-1 電気使用量昨年度比 10 %減 ③-2 ゴミの分別の徹底	①-1 生徒の特別活動満足度 93.9% ①-2 荒天時を除き毎日実施できた。 ①-3 農業祭における来場者数 200 名を超える来場者数を得られた。 ①-4 クラス別・学年別集会の実施回数 5 ②部活動加入率 45% ③-1 電気使用量 前年度比 昨年通り	評定 A B B B B B	総合評価 B (所見) 生徒会活動がますます充実し、生徒自らが企画・運営する学校行事が運営されている。挨拶運動等のボランティア活動やベンチ製作等の活動も積極的になってきている。 部活動は、休部中の部が多くなっている中에서도、ライフル射撃部が全国大会で準優勝するなど、活躍が目立つ部もある。 環境衛生活動は、引き続き取り組んでいるが、目立った変化は得られていない。	B ○文化祭等の学校行事は、事前のより綿密な計画のもと実施できるようにする。 ○部活動の活性化に向けては、より積極的な勧誘に努める。 ○環境衛生活動は、結果の見える工夫を考え、全校的な取り組みしていく。
	活動計画 ①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために、生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に、有志を募る活動を行う。 ①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。(千葉県立勝浦若潮高校との交流・中庭のベンチ製作等) ①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。 ②-1 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。 ②-2 本校との合同練習を盛んにすると共に、地域の中学校に働きかけ、希望者を増やす活動を行う。 ②-2 部活動顧問会議を学期に1回程度開き、意見交換を行う。 ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底を図る。 ③-1 教室移動時等の消灯の徹底を図る。 ③-2 資源・エネルギーに関するDVD等を視聴する。 ③-3 ゴミの分別を徹底し、毎日の掃除時間には、職員を配置し監視を強化している。	活動計画の実施状況 ①-1 参加人数も徐々に増えてきている。近隣の方々からも、暖かい声をかけられることも多くなった。 ①-2 学校間交流や2台のベンチ製作も計画通り実施できた。 ①-3 個々の生徒が活躍できる場面設定を工夫する等、主体的参加が出来るよう促した。 ②-1 休日や長期休業中の活動が容易になり、地域に貢献する活動(棚田管理・絶滅危惧種の対応)が盛んになった。 ②-2 テニス部等合同練習も頻繁に行い、また特色選抜での生徒募集(ライフル射撃部・テニス部・陸上部・民芸部・バイテク部)を中学校に働きかけた。 ②-2 定期的な顧問会議は開けなかったが、教員間の意見交換は盛んだった。 ②-3 特に特色選抜関係について、意思疎通を図ることができた。 ③-1 生徒に対して頻繁に呼びかけた。 ③-2 機会を設けることは出来なかったが、資料集めに努力している。 ③-3 分別を徹底するよう指導に努め、監視を強化した。	成果と課題 ①-1 挨拶の励行と大きな声を出すことにより、礼儀やボランティアマインドの醸成にも役立っている。参加者が固定化されてきたことが、課題である。 ①-2 生徒自ら積極的に関わる態度ができてきた。学校全体の取り組みにしていく努力が必要と思われる。 ①-3 競争意識も芽生え、主体的な参画が図れる生徒が増えてきている。一部に、難しい者が居ることも事実である。 ②-1 多くの生徒で活動ができるようになった。より活発にしていきたい。 ②-2 生徒同士の交流も盛んになっている。特色選抜は、ライフル射撃部については希望者が5名増加し、その他についても7名の入学者を確保することができた。 ②-2 部活動に参加する生徒を増やす方を皆で考えていきたい。 ②-3 活動の活性化やより入部率を増やすための方策について、考えることができた。 ③-1 より徹底させたい。 ③-2 授業の中でも組み込んでいけるよう、意思疎通が必要である。 ③-3 あらゆる場面を通じて、分別の必要性を指導していく。	学校関係者の意見 生徒の元気なあいさつや活発な活動は地域にも力を与える。今後も多くの体験をさせ、自信をつけさせてほしい。 試合に勝つことだけが部活動ではない。少人数でも試合に出られなくても目的は達成できる。全体的に見ても部活動をする生徒は減ってきている。仲間づくりを通してコミュニケーション能力を育ててほしい。 環境問題により関心をもつよう、引き続き実施してほしい。	○生徒による学校行事等のPR ○生徒会執行部活動に、多くの生徒を勧誘 ○ボランティア活動参加生徒増 ○全校的な取り組みにしていく。 ○本校や中学校との交流を盛んにする。 ○広報の工夫(ホームページへの掲載、マスコミの活用等) ○環境問題の知的理解 ○清掃活動の監督、指導等の強化

総括評価表

重点課題 6
「学校の活性化、産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 基礎・基本の定着を図りこ 教育を創造し、地域に根ざ した活力と魅力ある学校づ くりを推進する。 (下位組織レベル) ①本校教育の地域への還元	<u>評価指標</u> ①出前実習活動、交流学习の実施数を年間 18回以上行う。	<u>評価指標による達成度</u> ①出前実習活動(校外での販売実習を含 む)や交流学习の実施数は41回である。	評定 A	A	○ 今後も地域に根ざ した学校として地 域貢献、環境保全 活動等魅力ある学 校づくりを推進す る。
	②年間を通して野菜・果樹・草花等を中心 に農産物の生産と販売を行う。	②年間を通して野菜・果樹・草花等を中心 に農産物の生産と販売を行うことができ た。生産収入も昨年度より40%増と なった。	A (所見) 地域に根ざした学校として地域貢献、 環境保全活動や新しい時代に対応した 農業教育を実践してきた。今後も、地 域に根ざした学校として活動してい きたい。		
	③ホームページの更新を月5回以上行う。	③ホームページの更新については月平均 7回となった。	A		
②農場経営の活性化 ③広報活動の充実	<u>活動計画</u> ①-1 地元小・中学校・特別支援学校等で 土作りから栽培管理について農業支援を 行い交流を深める。(5回以上) ①-2 地元の病院や介護福祉施設へ出向き、 花壇作り等環境整備を行う。(5回以上) ①-3 病院等に草花苗を提供する。 ①-4 ジンリョウユリやリンドウ等希少植 物の苗の提供、植え付け、観察等増殖活 動を行う。(6回以上) ①-5 棚田での田植え、稲刈り等保全活動 を行う。(2回) ②-1 地元で期待されている草花や野菜等 魅力ある農産物の生産を心掛ける。 ②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」 で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせ て年間6品目以上販売する。 ③-1 ホームページの内容を見直し新しい データに更新する。 ③-2 学校と保護者の連携を図るため各イ ベントに応じて情報の発信を行い説明責 任を果たす。	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1 ひのみね支援学校1回(花壇作り ・苗の定植)、横瀬小学校5回(サツマ イモの定植のための圃場整備や植え付 け、ハボタンをプランターへ定植)、上 勝中学校1回(芝小僧の制作) (計7回) ①-2 勝浦病院(庭園管理4回)、喜楽苑 (庭園管理・園芸セラピー・寄せ植え等 6回) (計10回) ①-3 勝浦病院の庭園管理のためナデシ コやハボタン苗を提供した。 ①-4 ジンリョウユリやリンドウ等希少 植物の苗の提供、植え付け、観察等増殖 活動を行った。(計6回) ①-5 田植え、稲刈り、収穫祭等へ参加 した。 (計3回) ②-1 草花苗やシクラメン、メロンやト マト・露地野菜、スダチや渋柿・チャ ンドラポメロ等多くの農産物を小学校や中 学校・文化祭・農産物販売所「よってネ 市」等で販売しみなさんに喜んで頂いた。 ②-2 野菜・果樹・草花等多くの農産物 の種類と数量を販売することができた。 (計24品目)	<u>成果と課題</u> ①-1～3 日頃学習した農業の関する知識や 技術をいかして活動に取り組んできた。交 流学習では、農業についての知識や技術を 支援することで自らの学習意欲が喚起され 自信となった。また、体験をとおしてコミ ュニケーション能力の向上に繋がったが、 生徒の自主性や主体性を育てるようこれ からも取り組む必要がある。 ①-4～5 バイオテクノロジーを活用し、絶 滅危惧種や希少植物の保護、棚田の保全活 動ができた。しかし、現地への移動方法や 資材の購入等の予算捻出が課題である。 ②-1～2 地域に根ざした学校として、また、 農業高校として生産から加工・販売に取り 組んできた。そして、地域の農産物及びそ の販売状況についても学習することができ た。 新鮮で市場価格よりも安く、安全・安心で 珍しい農産物が購入できると地域の方々か らも好評であった。 施設・設備の老朽化における整備と有効利 用、狭小な圃場の有効活用を更に検討して いく必要がある。 ③-1～2 ホームページの掲載や情報発信を 図り、学校と保護者地域社会を繋ぐ大きな 接点となった。ホームページの掲載や情報 発信を更に勧めたい。	<u>学校関係者の意見</u> 本校卒業生の中に地元で農場を経 営したり起業家になっている者がた くさんいる。これらに学ぶ方法を考 案して実践してほしい。また日ごろ の学習活動の中で培った知識や、技 術と心が他人や社会のために役立っ ていることを認識し、就職につなげ てほしい。 本校の存在意義は十分にある。花 づくりやみかん栽培を通して本県農 業の発展に貢献している。地域に根 ざした学校づくりについて宣伝して、 意欲のある生徒を獲得してほしい。 予算も軽減される中、限られた施 設・設備を有効に利用することが重 要となる。創意工夫しながら教育効 果を高めてほしい。	○ 出前実習活動、交 流学習の継続と実 施。生徒の自主性 ・主体性の育成 ○ 校外での活動を行 うための予算確保 ○ 施設・設備の整備 と有効活用の推進 ○ 研究機関や農家等 の見学や研修。そ のための予算確保
	③-2 学校と保護者の連携を図るため各イ ベントに応じて情報の発信を行い説明責 任を果たす。	③-2 保護者に各行事等についての案内 や連絡をしたりホームページでの掲載を したりして情報の発信を行うことが できた。			○ 情報発信と宣伝活 動を積極的に行う。